

# 中山間地域における小規模高齢化集落の互助の現状と課題

## Present conditions and issues of the mutual help in a small aging community in an semi-mountainous area

山下みよ子<sup>1)</sup>、野原徹<sup>1)</sup>、赤崎敦子<sup>1)</sup>、阿南沙織<sup>1)</sup>、張紅娜<sup>1)</sup>、横山正博<sup>2)</sup>、人見英里<sup>2)</sup>、田中マキ子<sup>2)</sup>  
Miyoko Yamashita<sup>1)</sup>, Toru Nohara<sup>1)</sup>, Atsuko Akasaki<sup>1)</sup>, Saori Anan<sup>1)</sup>, Hongna Zhang<sup>1)</sup>, Masahiro Yokoyama<sup>2)</sup>,  
Eri Hitomi<sup>2)</sup>, Makiko Tanaka<sup>2)</sup>

1) 山口県立大学院健康福祉学研究科博士前期課程

2) 山口県立大学院健康福祉学研究科

1) Graduate School of Health and Welfare ,Yamaguchi Prefectural University

2) Graduate School of Health and Welfare ,Yamaguchi Prefectural University

### 要約

山口市阿東蔵目喜地区は、86世帯が山間部の8つの小集落に分散して居住し、人口の6割が65才以上で占める小規模高齢化集落である。そのため、地区内の道路や水路の清掃作業、防犯・防災活動、集会施設の管理といったそこに住み続けるために必要な活動や、祭りなどの季節行事の開催、冠婚葬祭、共同利用の農業施設の管理、文化や技能の伝承などの集落機能の低下が懸念されている。

本研究では、蔵目喜地区を対象に住民の日常生活の中にある社会的ネットワークや互助の実態について半構造化面接による聞き取り調査を行った。その結果、多様な互助関係を通じた共同作業の中から豊かな社会的信頼を形成していた。また、明らかになった集落の互助機能の現状から、地区の課題と地区の強みが明らかになった。今後、集落の互助機能を維持しつつそこで暮らすためには、集落外の力の種類と導入への考察と地区の交流が存続するよう様々な仕組みの検討の必要性が示唆された。

キーワード：中山間地域、小規模高齢化集落、互助、共同作業、社会的信頼感

### Abstract

Zomeki Area in Atoh, Yamaguchi City is a small aging community with 86 households dispersed in eight small villages in mountains. 60% of the population are 65 years or older. Therefore, the deterioration of the village functions has been a concern. Such functions include succession of cultural and skill traditions, observance of wedding and funerals, basic maintenance of community life such as cleaning work of the roads and the waterways, crime and disaster prevention, and management of meeting facilities. They also include management of communal agricultural facilities and holding of seasonal events such as festivals.

In this study, therefore, we conducted an hearing investigation by using the semi-structured interview method in regards to the actual situation of social network and mutual help in the daily life of Zomeki Area's residents. As a result, we identified a strong sense of social trust formed out of collaboration through mutual assistance. In addition, we found both strengths and issues of the area based on the present conditions of the mutual functions of the villages. The results suggest that, in order for the residents to live in the community while maintaining its mutual functions, there is a need to examine the kinds of external resources and their introduction to the community as well as to investigate the various aspects of the community structure.

Keywords: semi-mountainous area, small aging village, mutual help, collaboration, sense of social trust

## 1 はじめに

中山間地域は、日本の国土面積の73%、山口県では69%を占めている。山口県における中山間地域には、県内人口の25%が居住し、比較的少ない人口で広い面積を支えている。中山間地域は、森林による大気の浄化や、森林や水田等の保水機能による土地の保全、水源の涵養など自然の循環機能に寄与している。そして、そこに生息する生物・生態系など自然環境の保全、新鮮な食料の供給など、その存在そのものが、人々の暮らしを守る重要な役割を担っている。また、安らぎをもたらす美しい景色の形成や、歴史・文化に根ざした景観を保持するなど、多面にわたる公益的な機能を有し、このような地域の持つ資源から多くの恵みを得て、また、多様な自然や生物と共生しながら地域独自の豊かな生活文化を形成している。

しかし、そこに住み、それを支えている人々は、急激な過疎化や高齢化の進行に伴い、道路や水路の清掃作業、防犯・防災活動、集会施設の管理といったそこに住み続けるために必要な活動や、祭りなどの季節行事の開催、冠婚葬祭、共同利用の農業用施設の管理、文化や技能の伝承などの集落機能が低下し、維持が困難になっており、いわゆる小規模高齢化集落<sup>注)</sup>としての課題が山積している。今後、集落の消滅が危惧される地域もあり、将来にわたり当該集落でコミュニティや生活を維持していくためには、さまざまな課題が存在することが予測される。その一方で、長年慣れ親しみ、信頼関係で結ばれた集落で暮らす強みも存在すると考えられる。実際、平成23年総務省の「過疎地域等における集落の状況に関する状況把握調査」によると、「10年以内に消滅の可能性がある」とされていた423集落のうち、8.3%にあたる35集落は既に消滅しているが、91.7%にあたる388集落では、現在も居住者がおり、そこから何らかの地域の力が存在すると考えられる。

そこで、集落機能のうち、住民同士のつながりや日常生活での助け合いの実態について調査・分析し、集落の互助の現状と課題を踏まえて、小規模高齢化集落のひとつである山口市阿東蔵目喜地区を対象に今後の地域づくりを考察した。こうした取り組みは、過疎・高齢に関する課題を抱える地方自治体には、モデル事例の提供として重要な役割を果たす。

注) 小規模高齢化集落とは、人口の半数以上が高齢者で世帯数が20世帯に満たない集落をさす。

## 2 目的

山口市阿東蔵目喜地区の住民同士の日常生活でのつながりや助け合いの実態について調査・分析を行い、中山間地域における小規模高齢化集落の互助の現状と課題について明らかにする。

## 3 研究方法

対象は、山口市阿東蔵目喜地区に在住する65歳以上の男女で、本研究に同意が得られた20名。対象者に近隣との互助の実態やその利点、地域で暮らす理由等に関する半構造化インタビュー調査を実施した。調査員2名もしくは3名が対象者の自宅を訪問した。調査時間は約1時間で、基本的属性(氏名、年齢、性別、居住年数、家族構成)とインタビューガイドを作成し調査者間でのバイアスが発生しないよう留意した。インタビューはICレコーダーに録音し、逐語録の作成後5人の研究者によりデータ内容についてカテゴリー別に分類し内容分析を行い、カテゴリー化をはかった。

## 4 倫理的配慮

調査対象者には、本研究の目的および方法について十分説明し、書面(同意書)による研究参加への意思確認を事前に行った。本研究への参加は対象者の自由意志であり、調査中に中断を表明しても、何も不利益を被らないこと、また、研究成果については、学会発表や研究論文等で公表するとともに山口市に情報提供するが、個人の情報が特定されないことを説明した。インタビューの際には、レコーダーに録音することも説明し了承を得た。本研究は、山口県立大学生命倫理委員会の許諾(26-41号)を得て行っている。

## 5 結果・考察

### (1) 山口市阿東蔵目喜の概要

#### 1) 蔵目喜地区の歴史

蔵目喜地区の桜郷銅山は、産出した銅が奈良の大仏に使われたと伝わる等1200年の歴史を持つ。かつては山間にひっそりと佇む集落の狭い場所に5千人もの鉱夫が住まい、遊郭もあるほど賑わった場所であった。「蔵目喜」の地名も、蔵目喜町が繁栄した当時、近郊の村々から「ぞめき」に行くと行ってたくさんの若者達が集まった「人がぞよめき賑やかな様子」が語源とも言われている。

この地区には、「銅」「赤釜」「町」「蔵目喜」等、銅山や銅で栄えた当時の様子に因んだ地名が多い。昭和30年4月に周辺5村との合併により阿東町となり、

平成22年1月16日、阿東町が山口市に編入合併したことに伴い、阿武郡阿東町蔵目喜から山口市阿東蔵目喜と地名表記が変更されている。

## 2) 人口・世帯の状況

蔵目喜地区の人口168人のうち65歳以上の高齢者が6割を占めている(図1)。平成22年の国勢調査結果では、高齢化率は山口県の28.0%を大きく上回る58.9%となっている。特に75歳以上の後期高齢者の人口が総人口の39.0%を占めている。15歳未満の

人口は4%と少なく、少子高齢化が進行している。世帯数は86世帯で、1世帯あたりの平均人数は1.95人、一人暮らし世帯が44%、二人暮らし世帯は34%で、1~2人の少人数世帯が全体の約8割を占め、高齢夫婦や独居世帯が多い中山間地域の小規模高齢化集落の状態である(図2)。

阿東地域全体の人口の推移を見ると、昭和30年から連続して急激な人口の減少傾向が続いている。昭和30年には2万人いた人口が、平成22年では約3分の1の6千人程度まで大幅に減少している(図3)。

資料：国勢調査(平成22年)

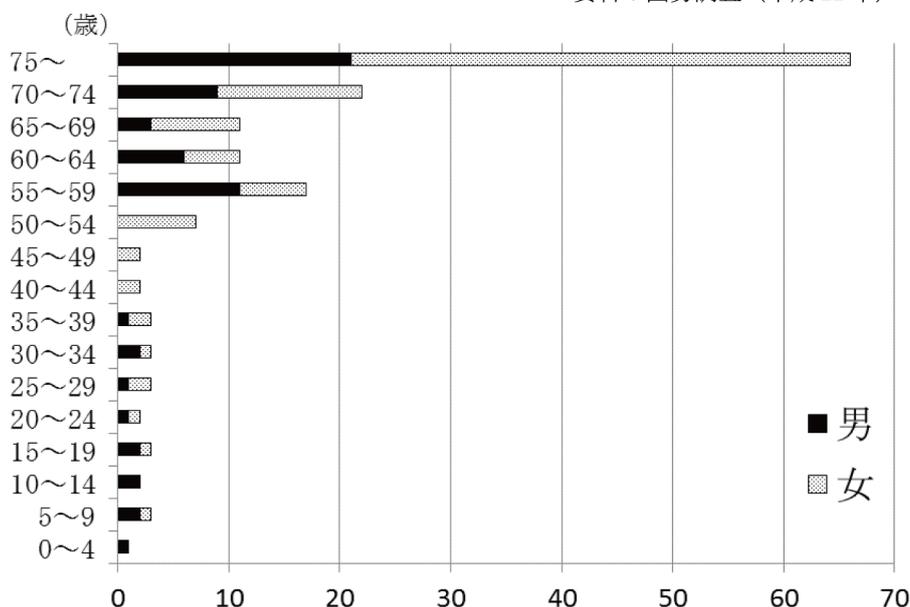


図1 年齢別人口構成比

資料：国勢調査(平成22年)

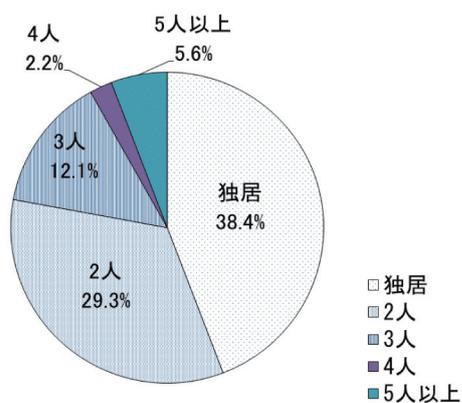


図2 世帯構成人数

資料：国勢調査(平成22年)

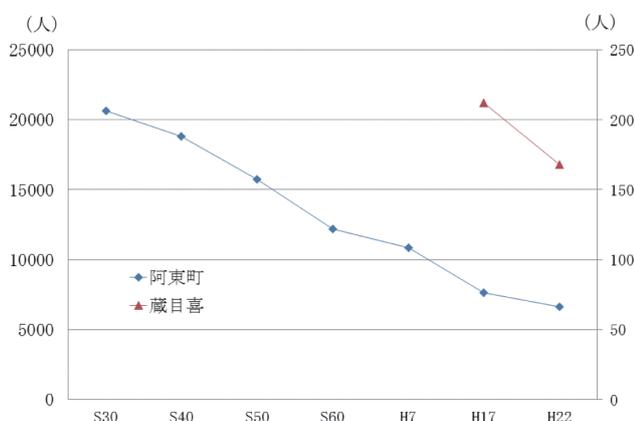


図3 人口の推移

### (2) 対象者

本研究に同意が得られた対象は、20名であった。性別は、男性5名、女性15名で、20名の平均年齢は77.2歳であり、男女別では、男性が75.2歳、女性が

77.9歳であった。性別及び年齢構成については以下に表す(表1)。後期高齢者割合が高い集落である。今後一層高齢化が進行するため、集落の担い手として誰が担うかが課題となる。

表1 調査対象者の年齢構成

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	合計
男性	2人	0人	1人	1人	1人	0人	5人
女性	2人	2人	5人	4人	1人	1人	15人
計	4人	2人	6人	5人	2人	1人	20人

### (3) 蔵目喜地区の互助関係

インタビューの結果から、集落で暮らすことのメリット・デメリット、課題等、多くの内容が語られた。内容毎に分類すると、蔵目喜地区での互助関係は、表2のようにまとめられた。清掃作業や葬儀のような共同作業や自家用車の乗り合い等の身近な助けあ

い。離れて暮らす家族からの支援やグランドゴルフ等の趣味・娯楽、地域の課題、永住への願望等のカテゴリーに構成された。対象者が語った互助の内容は、近隣で行う身近なものから地域全体で協力を要するものなど、そのレベルや内容は多種であった。

表2 蔵目喜地区での互助関係

内容	サブカテゴリー	カテゴリー
「道作り(3)」「道刈り(3)」「道」「道の掃除」「道の整備」「八幡様の草取り」「神社の清掃」「参道の管理」 「墓の掃除」「お墓へ行く道」「堤の土手の草刈り(3)」「ため池」「ため池の草刈り」「ため池の土手を焼く」 「草刈り(4)」「桜の木の下の草刈り(2)」「溝掃除(3)」「水路掃除(2)」「落ち葉が落ちたのを上げたり」	清掃活動	共同作業
「葬式(3)」「葬儀」「お葬式の段取り」「死講(3)」	葬儀	
「蔵目喜市場」「がんど市場」	蔵目喜市場	
「稲刈り(2)」「田植え(2)」「水やり(2)」「水当番」「機械は部落で買っている」	農業関係	
「シシの垣の補修」「イノシシの柵」「シシの網」	鳥獣害対策	
「老人クラブ(6)」「自治会(2)」「給食ボランティア(2)」「元気クラブ(2)」「農協婦人部」「民生委員」	組織活動	組織活動
「脳トレ(2)」「健康診断」「集金集会(2)」「敬老会(3)」「新年会(4)」「部落の総会」「祭り(4)」「泥落とし(4)」	集まり	集まり
「蔵目喜の日(6)」「盆踊り(4)」	今はない集まり	
「野菜を作って、近所にあげたり」「料理をこしらえて持って行く」	野菜・料理の交換	身近な 助け合い
「乗せてもらう(4)」「乗せてあげる(3)」「便を借りる」	車の乗り合わせ	
「支払い代行」「書類の作成」	書類や手続きの手伝い	
「消費者センター」「110番通報」「クーリングオフの手伝い」「見回り」「一人暮らしの家はよう見ます」	見守り・声かけ	
「鍵を預かって風を通す」	空き家の管理	
「頼まれて買うてきます」	買い物	
「ゴミ出しの日は見えてくれる」	ゴミの分別	
「家族が病院や買い物に連れて行ってくれる(2)」	同居家族の支援	家族の支援
「土日によちよちよ来てくれる」「食事の差し入れ(2)」「主人の妹が時々様子を見に来てくれる」	通い家族の支援	
「娘からしょっちゅう電話がかかる」「風邪をひいて具合がわるいとき娘が3回戻ってきてくれた」	遠隔地に住む家族の支援	趣味・ スポーツ
「カラオケ(5)」	カラオケ	
「グランドゴルフ(2)」	グランドゴルフ	
「フォークダンス(2)」	フォークダンス	

「商店が一つぐらい」「品ぞろえが悪い」「奥の方は困る」「半分になった」	買い物	地域の課題
「(40年前の)今は半分になった」「若い人がいない」「山口市に家を構えて」「空き家になっちょる」	過疎	
「PR不足」	観光	
「過疎地での仕事のやりにくさ」「集まりの場に出てきてくれない」	後継者の育成	
「週に2回ほど福祉タクシー」「バス、1時間に1回でもあればいい」	交通	
「台風なんかのときには、ちょっと恐ろしいですね」	災害	
「(歴史文化財の保存運営委員会の)管理が難しい」	史跡の保存	
「イノシシ、サルが多い」「行政ぐるみで」「昔は鉄砲を持った人が多かった」	鳥獣害対策	
「稲やらハウスを建てて、トマトでもなんでもええ」「野菜を作って」「多角経営」	定住対策	
「人手がない(4)」「男の人がいない」「皆、年をとった」「高齢と体力」「草刈り機を使える人が少ない」	人手不足	
「元気な間」「体が動かんようになったら」「身の回りのことができなくなったとき」	病気や介護が必要になったとき	
「一人じゃ生活しません」「私一人になったとき」「主人が施設に入ったら」	独居になったとき	
「どうしようかっていう心配はありますよね」「運転できなくなったときが問題じゃろうと思う」「人間放棄みたいなもの」	車の運転ができなくなったとき	
「できればずっとここにおりたい」	地域で暮らし続けたい	永住への願い
「目いっぱいやれるだけここにおきたい」「親の介護ちゅうのは大変ですよ」	子どもの世話にはなりたくない	助け合いの良さ
「事情を分かってくれるとやりやすい」「福祉委員や民生委員がしっかりして、見回ってくれる」	安心	
「共同作業とかしてる」「よいよ親切」「よう教えてくれたり」「ありがたい」(2)「みなさんで応援して」	感謝	
「若い者が地区を守らんやあいかんちゅうことは、息子にもチクリチクリ言うんですけどね」	後継者の育成	必要な助け合い
「大雨が降ったときには、ちょっと気になりますよね」	災害対策	
「保存運営委員会、そーいものを作ってね」	史跡の保存	
「大きな組織でね、全体を」	鳥獣害対策	
「若い人を地方へ留めておくことをやらんことには」	定住対策	
「昔ながらの家というのは危ないところに家を造らんのですよ」「鍵もほとんどかけてない」	安全	地域の強み
「気候」「きれいな水」「心が穏やかになります」「空気が清い」「雪山が綺麗」「蛍」「広々としている」	自然環境	
「蔵目喜の活性化をやろうで」ということで、一致団結して今までやってきた」	団結力	
「田舎はみんな人がいいからね」「井戸端会議」「時折折ってお話をする」「集まったときに一緒に楽しい時間を過ごす」「施設に入られた方もちょこちょこ電話がある」「誘い合って出かける」	仲が良い	
「鉱山跡」	名所・旧跡	

### 1) 互助関係の中心をなす共同作業

蔵目喜地区での互助関係の要には、「共同作業」が中心に位置づくと考えられる。カテゴリー「共同作業」のサブカテゴリーには、「葬儀」「草刈り・清掃作業」「農業関係」「鳥獣害対策」「蔵目喜市場」などから構成されていた。これらは、村落共同体としての機能維持の存在を示すものである。

死者があった際の葬儀では、家族の食事の世話や参列者の湯茶接待、葬儀当日の進行役、駐車場案内や受付等、人手を要する大きなライフイベントを集落全体で協力して行い、喪主家族の精神的・社会的な支持機能を担っている。

「清掃活動」では、共同墓地への道路や神社、史跡、水路、堤の土手など、集落内の共有スペースの除草や清掃作業を協力して行い、生活環境の整備を協力して

行っている。また、堤や水路の保全に関しては「水利組合」を組織している集落もあった。この他、田植えや稲刈りの繁忙期に大型の機械を交代で使用するなど、機械の操作が困難な高齢者の世帯の農作業を代行するなどの営農もうまく機能している。さるやイノシシの鳥獣害の対策には、垣根や柵を張り巡らすなど、被害は絶えず対応の限界が語られているが、住民の協力による自衛策が講じられている(図4参照)。

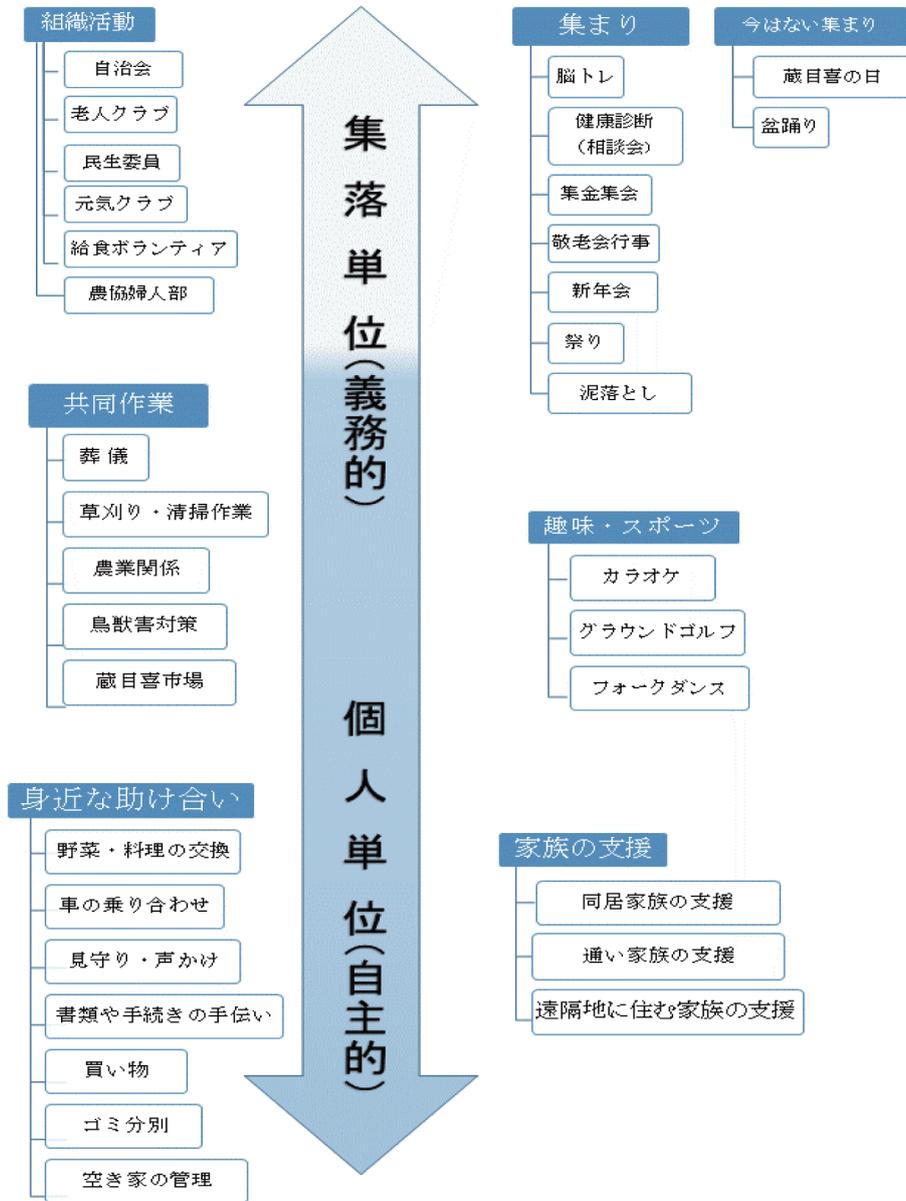


図4 蔵目喜地区内の多様な互助

こうした活動が継続できる理由は、集落をまとめ・動かすことのできるリーダーの存在が大きい。顔の見える関係、そして長い集落での人間関係から形成された住民間の社会的信頼関係が、共同作業を可能とし、「野菜・料理の交換」や「車の乗り合わせ」「見守り・声かけ」等、昔ながらの親密な近隣付き合いも活性化させ、互いの思いやりによる共助を可能としている。

さらにこうした社会的信頼関係を紐体とした集落のまとまりは、「給食ボランティア」や「農協婦人部活動」の継続に影響している。集落の担い手は、それ相

応に高齢化しており、活動の継続は難しい状況にあるが、集落からの要請があった場合には、速やかに活動が行えるネットワークの維持と実践力を温存している。こうした状況は、いわば「義務的な活動」においても、共同作業等を通して培われた太くて強い団結力が社会的信頼感の醸成となって存在するためと考えられる。

住民からは、「人情味がある」「人数は少ないがよくまとまっている」「気兼ねなく生活できる」など住人同士の信頼関係の強さと集落への愛着が語られる。日

常的に近隣同士で協力しながら生活してきた経験は、「お互いさま」や「おかげさま」という、近隣の人を頼り、頼られる社会的信頼の土台形成に寄与したのだろう。その結果、「野菜・料理の交換」や「車の乗り合わせ」等自主的な活動を刺激し、一層社会的信頼感の高まりに寄与していると推測できる。

社会的信頼は、ソーシャル・キャピタル (social capital、社会関係資本) という概念の一部であると考えられている。ソーシャル・キャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることにより、社会の効率性を高めることのできる「信頼」「互酬性の規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴と定義されており (パトナム,1993)<sup>1)</sup>、持続可能なコミュニティの構築や地域発展のツールとして注目されている。互酬性とい

う規範は、社会的交換の緊密なネットワークが関係している。信頼することで、その返礼として相手から信頼し返されるという互酬性の交換を長期間にわたって繰り返すと、その規範は強まる傾向にある。故に、蔵目喜地区のように、集落内で互助が活発に行われることは、豊かなソーシャル・キャピタルが醸成される必須要件を保っていることであり、互助が促進されるという正の相関関係に循環していると考える (図5参照)。蔵目喜には、この正の社会的ネットワーク効果を醸すための基盤があり、共同作業や身近な助け合いやなどの互助が相乗し、集落内の集まりや趣味・スポーツなどの自発的な活動と集落内の多様な社会的ネットワークにも連動し、社会的信頼感が一層強固になっていると考える。

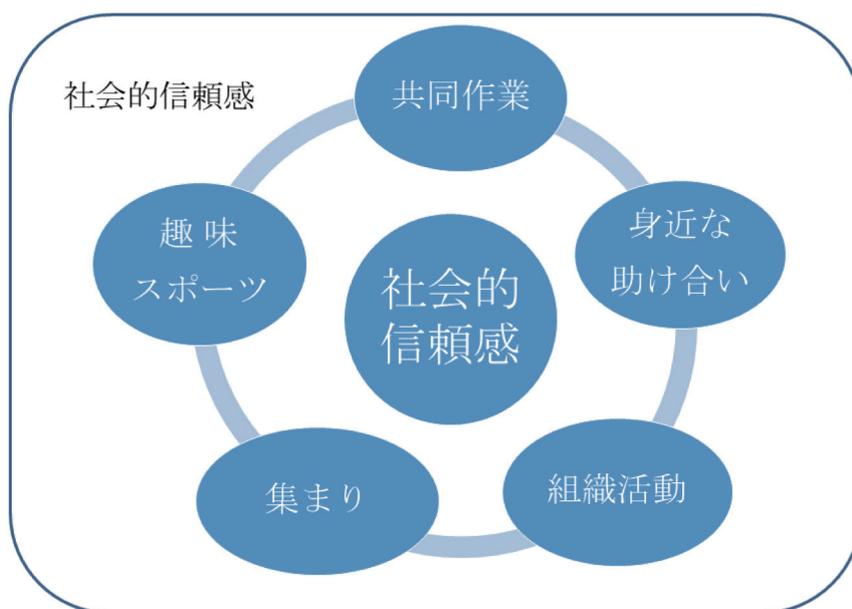


図5 社会的ネットワークの効果

## 2) 互助関係を揺るがす要因

蔵目喜において、互助関係を揺るがす要因の一番には、人手不足に並ぶ住民の高齢化による健康障害と言えよう。個人単位の互助 (図4) は個人の意思で自発的に行われるのに対して、集落単位の互助はある種の義務が生じるため、過疎や高齢化による人手不足から活動の維持が困難になりつつある現状や、負担感の増大へ影響している。たとえば「清掃活動」では、市外に住む他家の家族に金銭を支払い、人手不足を補っている例もあり、集落内のマンパワーでは困難になりつつある現状が浮き彫りになっている。

組織活動においても、高齢独居や高齢夫婦世帯では、車の運転や健康上の理由から、自治会の役員の順番が回ってきても引き受けることができない場合や組織のリーダー役が同じ人に集中する傾向もあり、一人で何役も引き受けてなくてはならない状況が続いている。さらには、リーダーが病気等の理由で倒れるような場合では、次を担う人材がなく、集落の行事の中断が余儀なくされる。

集落内での人手確保が困難な場合、持続可能な方法として、他の地域からのボランティアや通い家族による支援の導入など、新たな仕組みづくりを進めていく

ことも重要と考える。図6には、蔵目喜地区が抱える課題と今後の互助内容に何が求められるかをまとめた。蔵目喜地区の基盤に位置づく社会的信頼感は、共

同作業を通じた交流から生まれているため、集落住民が交流することが絶えない方法や仕組みづくりへの模索が重要ではないだろうか。

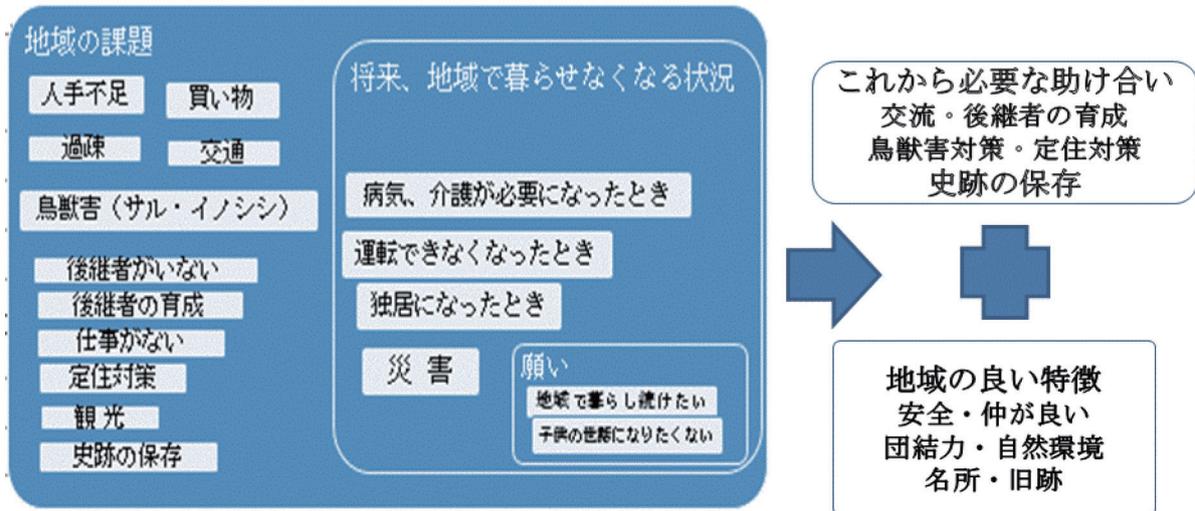


図6 蔵目喜地区の課題と今後の互助内容

## 6 まとめ

本研究から、中山間地域における小規模高齢化集落に住む高齢者は、日常生活のあらゆる場面で助け合いや支えあいを行いながら生活する中で、多様な互助関係から豊かな社会的信頼感を形成し、日々の生活での互助によって、その信頼感を一層根強いものに増幅していた。住民同士の強い信頼関係が土台となり、中山間地域特有の生活上の不便さはあっても、美しい自然や住みなれた集落で暮らす安心感、住民の団結力、仲の良さなどを地域の強みに変え、そこで（中山間地域の小規模高齢化集落）暮らす意義を見出していた。

しかしながら、高齢による健康障害や住む人の減少（人手不足）から、住み慣れた集落での永住希望を阻害する要因も多く出現してきており、このことは集落内の互助機能にも影響を及ぼし、社会的信頼感の要が揺るがされる状態に至っている。

今後、集落内だけでは維持が困難になりつつある互助機能の一部を、通い家族や学生ボランティアなど、集落外からの力の導入としてその種類や量について考察を踏まえつつ、集落内の交流が存続するよう様々な仕組みを検討することの重要性が示唆された。

謝辞 本研究にご協力いただきました山口市阿東蔵目喜地区の皆様へ厚く感謝申し上げます。また本研究は、

山口市「中山間集落等域学連携調査」として研究費をうけて実施したものです。

## 【引用文献】

- 1) Putnam R : Making Democracy Work : Civic Traditions in Modern Italy. New Jersey, Princeton University Press, 1993. [河田潤一訳「哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造」NTT出版, 2001.

## 【参考文献】

- 1) 山口県：平成26年度版山口県中山間地域づくり白書。  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/8/c/4/8c4f50022b7bbc1a9f1b0892ae457cb5.pdf>  
2014.10.30
- 2) 山口県：山口県中山間地域づくりビジョン，平成25年7月。  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/8/5/d/85d5206955291edc2db14f9ecd1e5123.pdf>  
2014.10.30
- 3) 総務省 地域力創造グループ 過疎対策室：過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査報告書，平成23年3月。  
<http://www.soumu>

- go.jp/main\_content/000113146.pdf 2014.10.30
- 4) 国土交通省国土政策局：小規模・高齢化する集落の将来を考えるヒント集，平成24年3月。  
<http://www.mlit.go.jp/common/000206228.pdf>  
2014.10.30
- 5) 総務省統計局：国勢調査  
<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/>  
2014.10.30
- 6) 山口県：主要基礎データ（健康福祉部）  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a13200/>
- kiso-data/data.html 2014.10.30
- 7) 山口県阿東町：第4次阿東町総合計画。
- 8) 山口県阿東町：阿東町史。
- 9) 阿東町制施行五十年史編集委員会編：阿東町制施行五十年史，平成17年1月。
- 10) 米増直美，松下光子：過疎地域に住居する高齢者の「通い家族」の現状と支援のあり方，岐阜県立看護大学紀要，第9巻，2号2009。

**【資料】 インタビューガイド（質問項目）**

- ・ 近隣の人とどのような助け合いがありますか。
- ・ 近隣の人との助け合いがあつて良かったと思うことがありますか。
- ・ この地域のよい所（特徴）はどんなことだと思いますか。
- ・ これからも、この地域で暮らし続けるためには、近隣の人とどのような助け合いが必要だと思いますか。
- ・ 将来、自宅で生活をすることができなくなるとしたら、どのような状況になったときだと思いますか。

